水産科学の分野で活躍する女性たち 27

Dynamic Women@Fisheries Science 27

函館（北海道）・廿日市（広島）・
大船渡（岩手）・相模原（神奈川）

天 野 春 菜

北里大学海洋生命科学部

HARUNA AMANO

School of Marine Biosciences, Kitasato University, Sagami-hara,
Kanagawa 252-0373, Japan

はじめに

私は、これまで北海道大学水産学部原研究室、水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所化学環境部で研究を行い、現在は北里大学海洋生命科学部で教鞭をとっています。また、この間に結婚して二人の子どもに恵まれました。函館（北海道）・廿日市（広島）・大船渡（岩手）・相模原（神奈川）と異動しながら研究・子育てしてきたことをまとめてみたいと思います。

北海道大学水産学部原研究室（函館）

学部4年生から博士課程終了までの期間、さらにCOE 研究員として3年間を過ごしました。「魚類の卵黄形成過程の解明」を目的として卵黄タンパクの前駆物質であるビテロジェニンや卵黄タンパク質の精製・同定・性状解析を行い、免疫生化学的手法やタンパク質の精製方法などを学びました。私は本当にダメダメ学生で、原 彰彦教授（現：名誉教授）と先輩のポスドクの方々に実験・研究、何から何までご指導頂きました。博士取得後に結婚し、ポスドク2年目に妊娠、3年目に長男を出産しました。当時、水産学部には女性教員はいなかったのですが、身近な先生や先輩ポスドクの方に子どもが産まれていて、みなさん（男性も女性も）子育ても研究もしっかりされていたので、自身の妊娠・出産についてあまり不安は感じていませんでした。学生時代から妊娠するまでは、朝（と言っても11時頃）から深夜まで研究室にいる生活でしたが、妊娠中は夜早くに帰宅するようになりました。また、産後はあまり実験できないと思い、出産ぎりぎりまで実験していました。出産後の生活は考えていた以上に大変でした。産前は「産後休暇中に長男を寝かせてから論文を書こう」と甘く考えていたのですが、授乳・抱っこして寝かせる・布団に降ろすと起きる・抱っこする、の繰り返しではほぼ24時間、子どもとべったりな生活を送ることになりました。特に私の場合、夫が主夫をしており、産前休暇や育児休暇を取るとその間無給になるので（もちろん申請するとしばらくたってから給与の5～6割が振り込まれます）、産後休暇のみで復帰しました。復帰後は朝、大学へ行き、15時頃に一度授乳のため家に戻ってから、再度大学に行くようにし、論文を書くなどデスクワークを中心に行っていました。

水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所化学環境部（廿日市）

化学環境部（現：環境保全センター有害物質グループ）では、研究等支援職員として1年間、「海産生物に対する毒性影響を指標とした防汚物質の海洋生態リスク評価に関する研究」に携わりました。防汚物質とは、船底や漁具に海藻やフジツボなどの生物が付着しないようにするための化学物質です。マミチョグやマダイの稚仔魚、ゴカイなどを用いて急性毒性試験や慢性毒性試験などを行っていました。この時、長男は0～1歳で環境が非常に変化したためか慣れるのに時間がかかり、よく泣いていました。しかし、勤務時間がきっちりと決まっており、また研究室のみなさんに配慮して頂いて勤務後すぐに帰宅できていたので大変助かりました。

北里大学海洋生命科学部（大船渡・相模原）

北里大学海洋生命科学部に運よく採用していただき、5年目になります。ここでは、水族機能生物学研究室の森山俊介教授とともに「魚介類の成長・成熟に関連する生理活性物質の同定とそのメカニズムの解明」を目的として研究を行っています。三陸キャンパス（岩手県大船渡市）で研究を始めて1年たったころ、東日本大震災が起これ、相模原キャンパス（神奈川県相模原市）に異動しました。この4年間で、三陸での研究室立ち上げ、三陸から相模原への移設、相模原での間借り研究室から新しい研究室への移動と3度の研究室移転を経験し、ようやく落ち着いて研究出来る環境になってきました。また、震災当時、長男は2歳で被災地での生活は大変でしたが、子どもがいたおかげで地域の方に声をかけていただいたり、気を配っていただいたりして何とか乗り越えることができました。そして、2014年2月に相模原で次男を出産しました。今回の妊娠中には大きなお腹で講義をするなど、初めて経験することたくさんありました。産後休暇を終えて4月末に復帰し、早くも9か月が過ぎようとしています。パタパタと時間に追われてやはり思ったように研究は進んでいませんが、6歳の長男と10ヶ月の次男の笑顔に癒やされ、もっと頑張っていこうと気持ちを新たにしています。

最後に

これまで私が出会った先生方や先輩方は男性女性問わず、研究と家庭（子育てを含む）を両立されていたりしゃる方が多いと思います。女性研究者は少ないですが、お手本となる方はいらっしゃるのではないのでしょうか？ぜひ、身近な先生や先輩といろんな話をしてみて下さい。たくさんの発見があると思います。また、今回、書かせて頂いたことは、ひとえに家族の助けやこれまでの研究室や職場の先生・上司・先輩・後輩・学生のご理解・ご配慮があっでできていることです。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。